

津市立ハツ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 10. 6

N035

どうする〇〇

今年のNHK大河ドラマは徳川家康を取り上げた『どうする 家康』を私も毎週、楽しみに見えています。脚本家の古沢 良太さんはこれまで数々のドラマを手掛けてきたことでも有名な方です。

ネット上では「史実とかけ離れている」と指摘も受けていますが、私個人としては「歴史とはこういう解釈の仕方もあるのか…」と新たな視点を教えてもらっている感じがしています。

(ロゴはNHK HPより)

寂しい話ですが、9月29日(金)を最後に1年生と3年生の兄弟が転出していきました。弟である1年生の児童が28日に他の児童と昼休みに校長室に遊びに来てくれました。しばらく、いろいろな話をしていましたが掃除開始5分前である13:20になり、そろそろ教室に他の子どもたちが戻ろうとしていた時、この子が突然「先生、リレーしよ」と言い出しました。私はあと5分で授業が始まるタイミングであったため、一瞬、考えましたが、この子の気持ちに寄り添おうと「よし、運動場に出よう」と返事をしました。その子は赤白帽を取りに行き、喜んで運動場に出てきました。何と結果は1年生の子の勝ち。教室に戻って「ぼくさあ、校長先生にかつたんやで」と得意げに教室で話していたと聞きました。校長の職は小さなことから大きなことまで「どうする〇〇」と判断をしなければならぬことばかりです。29日、私は4年生と終日、社会見学の引率として出ているため、この1年生とはこのリレーが最後となりました。社会見学から帰った時、児童はすでに下校していました。前日、あの子の一言に対応する判断をして本当によかったと感じました。「一期一会」とよく言いますが、一瞬一瞬を「これで会うのが最後かもしれない」と心におきながら、子どもたちと関わっていきたくとあらためて感じました。

